

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1690500143		
法人名	NPO法人ヒューマックス		
事業所名	グループホーム 宮田の家		
所在地	富山県氷見市島尾548-1		
自己評価作成日	平成29年1月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	平成29年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家族」という理念を掲げ、利用者や家族とのかかわりの中で、介護する側される側の立場になる事無く、共に支え合えるように努め「自分だったら…家族だったら…」と、自分や家族に置き換えて、ホームでの生活が自宅の様に楽しめるように取り組んだり、問題が柔軟に解決できるように努めている。宮田の家での生活が快適で楽しめるように常に評価、改善を行なっている。利用開始時やサービス計画説明時などに利用者やご家族にも理念の「家族」と言う事を説明し、気軽に話したり互いに相談できるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念の一文に「家族」と言う言葉をキーワードとし、利用者や家族とのかかわりの中で、「自分が”家族”なら…」と、自分や家族に置き換えケアに取り組んでいる。同様に新入職員の指導にも、「家族」であれば…と言う視点でケアを考えるように指導訓練が行われている。訪問調査時は、言葉通り入居者と職員が家族のように屈託のないコミュニケーションで笑顔と笑い声が行き交っていた。同地域に開設し十数年経過した法人が運営するグループホームがありその実績、また代表者の自宅も地域にある事から、農作物の差し入れなど、普通の近所付き合いがある。グループホームの運営との直接な関係は無いが地域の障害者の方々の旅行に職員が付き添ったり、地域の中にある福祉事業を運営するNPO法人として、バリアフリーな地域作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から法人の理念である「家族」と言うことに触れ、家族だったら・・と家族に置き換えて実践に取り組んでいる。また、共有スペースのリビングには理念を掲示している。	「家族」という理念を職員全員で共有を図っている。職員採用時は、ともにケアを行う新人教育期間にも先輩職員は新人に対して「自分の家族ならどのようにケアをするか？」と問い理念の周知と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年2回、地域の小学校の総合学習の受け入れを行ない交流したり、地域の方が集まり活動しているハーモニカ演奏のグループのボランティアも受け入れ交流している。また、グループには職員も参加し交流を深めている。	事業所の建物にカフェのような設えの団らんスペースがあり、地域の方が利用していただけるように解放している。地域からの見学、ボランティア慰問、地元小学生の訪問を積極的に受け入れている。また、地域の障害者グループからの要望で施設代表者と職員が企画の中心となり泊旅行を年1回行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の地区社協や民生委員の方々の見学を受け入れ施設の説明と共に認知症についての説明を行なっている。また、認知症の理解や支援についても助言や対応を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービスの実践や状況、日頃の様子等を解りやすく説明し、話し合っている。また、会議で出た意見をまとめ、実践に取り組みサービスの質の向上に活かしている。	年6回開催している地域運営推進会議は、すべての家族に開催案内及び会議の議事録を送付している。会議で出されたボランティアの情報や運営に関する意見を活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内の連絡会や委員会等に参加し情報交換を行ったり、運営推進会議を通じ日頃から相談し協力関係を築けるように努めている。	市の職員とは、運営推進会議の出席や、市主催の研修会参加などを通し、協力関係を築いている。また市の協議会に参加し、施設の事だけでなく高齢であっても障害があっても住みやすい地域づくりに向けさまざまな意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解しており、身体拘束をしないケアに日頃から取り組んでいる。また、研修に参加し学んでいる。	管理者は職員に、身体拘束について、自分に置き換えて考えるように日々指導しており、職員は身体拘束を行わないケア、施錠しないケア、言葉による行動抑制につながらないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待について理解しており、徹底して虐待をしないケアに日頃から取り組んでいる。また、研修に参加し学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や数名の職員は学んだ経験があり理解している。制度を必要としている利用者はこれまでに居られないが、今後必要に応じて活用できるよう支援して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な説明を行なうと共に、不安点や疑問点を尋ね、不安や疑問が解消できる様に取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や計画書説明時等に要望や意見を求め、気軽に話せる様に努めている。病院への受診付き添いやDrへの説明など要望に応じ行なっている。また、駐車場の拡張の要望もあり拡張を行なった。	家族が面会に来られた時には、積極的に声掛けしたり、家族が参加する食事会を開催し、そこから意見や要望の把握に努めている。それら家族の意見から、病院への同行受診や駐車場拡張の実現などにつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員の意見や提案を聞き反映させている。病院への付き添い時や行事の時等の職員増加の意見・提案を受け、職員を加配させるなどの工夫を行ない、全員で取り組んでいる。	日頃から代表者や管理者と一緒にケアに関わり、職員は気軽に意見を言える関係性が出来ている。年1回代表者は個別面談し直接要望を聞き、職員の頑張りに対し評価し意欲をもって働ける施設環境に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や実績、勤務状況を把握し環境や条件の整備に努めている。それぞれが責任を持って業務が行える様、担当を指示し給料水準にも反映させ、向上心が持てる様に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員の力量を把握し、それぞれに適した研修の機会を設けている。また、働きながら職員同士で学べるように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や連絡協議会を通じて交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人や家族、関係者と面談し状況の把握を行なうと共に要望や不安な事を尋ね安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族や本人と十分に話し合い、不安や要望を聞き出し、不安の軽減に努め、出来るだけ要望に沿える様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人と話し合い、その時に必要なサービスを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、盛り付けや家事仕事などを共に行き、共に知識を出し合いながら、「家族」と言う理念の下、支え合いながら暮らせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から現状の報告と起こり得る事などを話し、その時々に応じ、協力も得ながら共に支え合っている。また、気軽に話し合える環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から通っていた病院や店舗、場所を利用し、関係が途切れない様に支援している。また、新たに馴染みの関係になった理髪店等の関係も途切れない様に努めている。家族や知人に対しても何時でも気軽に立ち寄れるように説明し実践している。	家族や友人・知人の面会時には、積極的にコミュニケーションを図り来所しやすい雰囲気作りに努めている。本人の「〇〇に行きたい」という思いに沿った個別外出を行い、その際、家族にも協力をいただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間での利用者の関係を把握し、気の合った者同士で過ごせる様に努めている。一人や少人数でも過ごせる場所を作り、快適に過ごせる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、戸外であった時など、利用時と同じように現状や困っている事などを聞き出し、必要に応じ助言や相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話の中で思いや希望をさりげなく聞き出し、希望や思いに沿える様に努めている。また、困難な場合は情報や家族から以前の事などを聞き出し、把握に努め実践している。	日常の関わりで聞き取った本人の思いや希望は記録に残し、職員間で情報の共有を図っている。自身の言葉で要望を伝えることが困難な方は、関わりの中で本人の表情の変化から思いを読み取ったり、家族に以前の生活ぶりを聞き、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集し把握に努めている。また、家族や知人からも以前の情報を集め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々にその日の状況を記録したり、職員が気づいた状況や力量などの情報を共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医と話し合い、服薬調整や機能訓練や楽しみ等の意見や助言を反映し現状に応じた介護計画を作成している。介護計画は基本、3か月に1度のモニタリングを実施している。また、ミーティング時に担当者会議を行ない介護計画の見直しを行なっている。	日々の介護記録は介護計画にそって記録ができる様式になっている。介護計画の実践状況がわかりやすく、3か月に1度のモニタリングに活かされている。月1回の全職員が参加しているミーティングの時間に担当者会議を開催し介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践を個々に記録し、情報を共有しながら実践に取り組んでいる。記録や気づき、情報を基に評価を行ない、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物、理容店への付き添い等、その時々生まれるニーズに柔軟に対応している。食事提供においても、嫌いな物や食べられない物がメニューにある場合は別メニューを用意し提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内外のイベントに出掛けたり、地域の祭りの参加やボランティアを受け入れ、地域資源が楽しめるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から受診している病院へ受診し、本人や家族の希望に応じている。専門科への受診が必要な場合は、主治医や家族と話し合い適切な医療を受けられるように努めている。	契約時にかかりつけ医の確認を行い、本人や家族の意向に沿ったかかりつけ医を選択していただいている。長年馴染みの医師に診てもらえる事でご本人の安心につながっている。緊急時は市内の総合病院と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の看護職員の出勤時に情報を伝え、助言や指示を受けている。助言や指示等は看護記録を作成し職員全体で情報共有できるように保管している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度は入院された利用者は居られないが、入院した際は早期退院に向けて病院関係者や家族などと話し合ったり、お見舞いにも出かけ、状態の把握に努め、退院後の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始前に重度化した場合などについて家族、本人と話し合い、事業所で出来る事を説明している。また、状態に合わせて起こり得る事にも触れ、家族と話し合っている。看取りの研修会に参加し学んだことを職員で共有し理解を深めるよう取り組んでいる。	開設時から訪問調査までの期間での看取りの実施はないが、看取り指針を整備し、職員への看取り研修を行い看取りに関する知識と理解の共有に取り組み、状態に応じて対応ができるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習Ⅰを受講し急変時や事故に備えているが、今年度は受講していない。職員全員が受講し急変時や事故発生時に実践できる様に進めて行きたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害に備え、避難訓練(年2回)を実施し、避難に備えている。また、運営推進会議を通じ地域の方に協力が得られるよう努めている。	火災、地震による災害を想定した訓練を各1回ずつ実施。その他夜間の緊急連絡網を使用した抜き打ち訓練や、地域避難所の小学校まで利用者とともに徒歩で移動し避難経路までの所要時間を確認するなど災害に備えた取り組みを行っている。	防災意識も高く、色々な取り組みがなされているが、夜間想定火災避難訓練を取り入れることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞かれたり、知られたくない内容や状況の時は、他者に気づかれない様に話したり対応を行ない、嫌な思いやプライバシーを損ねない様に努めている。	朝礼の申し送り時は、個人名を言わず居室番号で表現したり、排泄の失敗時は他者に気づかれないように声かけするなど、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動を通じ希望や自己決定できる様に働きかけている。また、日頃の会話から思いや希望する事などの把握に努め、実践に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとっての決まり事などは決めず、常に利用者のペースを優先し、希望に沿って過ごせる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に応じたおしゃれができる様に支援し、カットや毛染め、パーマへ出かけた時に出かけ、楽しめる様取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量を把握し、職員と共に食事作りや食事、片付けを楽しんでいる。また、嫌いな物や食べれない物のメニューの時は個別のメニューを提供したり、献立作成も共に行い、それぞれの好みのメニューを取り入れ楽しんでいる。	食べたい物の希望を聞きながら献立を作り、買い物、調理、後片付けまでを共に行っている。一つの家族としての当たり前の生活が実践されている。お節や行事食、外食、年1回お寿司屋さんに来所いただき握りたてのお寿司を楽しむなど、食べる楽しみ作りに工夫をこらしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康記録に食事摂取量や必要に応じ水分摂取量も記録し情報を共有している。また、健康状態に合わせメニューを個別で変更し摂取できるように取り組んでいる。自由に水分が摂れるようにお茶と湯呑を設置している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力量に応じ、うがいや義歯洗浄の声掛け、付き添い、確認、介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康記録に排泄状況、パターンを記録し、排泄パターンに合わせた誘導や声掛け、介助を行ない、失敗の防止に努めている。	事業所独自で作られた健康記録に24時間対応で排泄状況を記録している。排泄リズムを把握し、声掛けや必要な方への適時誘導を行い、失敗せずトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や乳製品の提供や運動にて便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後からの入浴で時間帯は決まっているが、汚れた時などは時間に関係なく直ぐに入浴ができるよう取り組んでいる。入浴できない日は無く、状態や希望に合わせて入浴を楽しんでいる。	午後を入浴時間とし、1日4～5人程度、一人ひとりゆっくりと時間を気にせず入浴できるよう支援している。1日おきと基本的なリズムはあるが、希望があれば毎日でも入浴できる。重度化してもホーム内で入浴できるよう、重度者対応の機械浴がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	強制することは無く、いつでも休めるよう取り組み、室温調整を行ったり、冬季には希望に応じ湯たんぽや電気毛布を使用し安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別での服薬情報をまとめ、情報を共有し理解に努めている。薬の変更時や追加時は効果や副作用についても話し合い、変化や不調の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力量や楽しみの把握に努め、家事作業等、役割を持って作業ができる様に支援している。園芸や畑仕事、調理や編み物などそれぞれの経験を活かし、共に楽しむよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など希望に沿ってでかけている。また、季節に合わせた場所へ出かけ、弁当を食べたり、市内の店舗へデザートを食べに行ったり、市内外のイベントへ出かけ楽しんでいる。	日常的に散歩やドライブ、買い物など希望に沿ってでかけている。また、季節に応じて花見などの名所へ出かけ、弁当や、飲食店で外食を楽しむ機会を作っている。地元氷見の祭りやイベント等へ出かけ、地元の人との交流を楽しめる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	力量に合わせ、家族の了解と協力の下、お金を所持している。買い物時(お菓子など安価な物)は自分で払う事が出来るようにそっと見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話を掛けたり、受けたり出来る様に取り組んでいる。また、手紙やFAXでのやりとりも同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境作りに努め、季節を感じられる飾りや写真を設置している。利用者が混乱を招いた場合は直ぐに取り除き、混乱の改善に努めている。音や光、温度や臭いにも注意し不快なく過ごせる様に取り組んでいる。	食事をしたり、余暇時間を過ごす共有フロアは天井が高くハイサイドライト(天井に作られた窓)からは自然光が入り明るく開放感がある。習字や押絵のような手作り作品が、程よく飾られている。また大きめの水槽に金魚が飼育されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々にソファや椅子を設置したり、読書の場所等も設け思い思いに過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や状態に合わせて使い慣れた馴染みの家具や好みの物を持ち込んで頂いたり、それぞれが自由に飾りつけをしたりなど、居心地良く安心して暮らせるように進めている。	入居時に家族の協力により使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、一人ひとりの好みや習慣に応じた居室内の環境が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアの色がそれぞれに違う色になっていたり、居室前には表札を設置し、自分の部屋が解るように工夫している。複雑な空間の無い建物内部になっている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム宮田の家

作成日: 平成 29年 3月 5日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練や抜き打ちの緊急連絡網の訓練を行なっているが、夜間を想定しての少数職員勤務時の訓練は行なっていない。	夜間を想定しての避難訓練を実施し、火災・災害時に備える。	夜間を想定し、夜勤者一人での避難訓練を実施する。	2ヶ月
2	13	職員の力量に合わせ、法人内外の研修の機会を設けているが、更に職員のスキルアップを目指したい。	職員の力量に応じた勉強会や研修に参加し更に職員のスキルアップを目指す。	法人内外の勉強会や研修会に参加し、実践を通じ職員のスキルアップを目指す。	12ヶ月
3	34	数年前に普通救命講習 I を受講しているが、新人職員など、受講していない職員もいる。	全職員が普通救命講習 I を受講し、緊急時や事故発生時に備える。	全職員が普通救命講習を受講し、緊急時や事故発生時に備え、実践力を身につける。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。